

シネマズライフ

2013年7月26日発行 第43号

http://p.booklog.jp/users/rion-takagi

編集 小杉 貴樹 読者 諒音

【最近のこれはお見事!】『コメント by ゲンスブル』

ゲンスブルの性格を的確に表現しているのだと思う。ロマン・ポランスキー監督のドキユメ

【最近のこれはまずいぞー!】『オンパレ』《オ》がいつているのはアルカイダの最高指導者ビンラディンがシムロンになるからやの??

映画の風景 日本の風景

※ 兵庫県和田山町 竹田城跡 ※



昔、「ハウルの動く城」という映画があった。こんな映画だ。ある王国のある町、隣国との戦争が間近で町はざわめいていた。18才のソフィーは、この町で父から受け継いだ帽子屋を任されていて忙しい日々を送っていた。ある日、町を歩いてみると何かに連れられている青年に会い彼を助ける。だが、青年はそんな彼女を置いて消えてしまう。彼の名前はハウル。昔聞わりを持つた王宮を追放されたという荒地の魔女に追われていたのだ。

その場は逃げられたものの、その晩ソフィーの店に荒地の魔女が現れ、ソフィーに90才の老婆になる呪いをかけてしまう。突然の出来事で老婆のまま暮す訳にもいかず、荒野へ逃れるが、そこは荒れ果てた荒野。とぼとぼと歩いてみるとハウルが住むという《動く城》に遭遇。とりあえずその《城》にソフィーは入り込んだ。しかし、その《城》は、とてもとても不思議な《城》だった。傷ついた心を持つハウルはやがて、ソフィーと共に《城》を見つめる。空に浮かぶ幻想的な竹田城を見るとき《ハウルの動く城》を思い出す。そこは人を魅きつける山城。つい、理想のパラダイスを想像してしまうのだ。

『ハウルの動く城』2004年 日本 監督 脚本:宮崎駿 声の主演:宮崎千恵子 木村拓哉 美輪明宏 我修院達也 神木隆之介 大冢洋

宮崎監督としては、テーマはドロドロとした大人の世界のお話。それをサラッと描き、老人問題・介護問題を考えさせるお話にしたのはさすがである。

コラム ツイッターは便利なグズズ?と想う件

後編

「テレビ」で世界中で起こった事が生中継され、「そこ」での出来事が同じ時間に体験できるようにになったが、ケネディの暗殺に始まり、湾岸戦争の開始が初めてテレビの生中継され、それを同時に見る人々は《戦争》の開始を目撃しているのに、も関わらず、ただの傍観者でしかない。

そこには、悲劇が行われているのに【映画を見るように】なすすべもない無力な人々が世界中に広がっただけだ。



妖怪の世界では今でも手紙でお話します。

時代ではなく、無名のフツターの個人の事も世界で知る事もできる時代になった。しかし、それは「便利になった!」と単純に喜ぶ事なんだろうか? たとえば、政治家は意見・主張をリアルタイムで知る事ができるというメリットはいいと思う。しかし、政治家(たとえば市長)だからとはいえ、自分の発言の失態・失言を一カ月も二カ月も延々と「言い訳」を読まされるとなると、鬱陶しいだけなのだが、時の政権に近づくと、と、マスコミも一々とりあげなければならず、日本中で「言い訳・愚痴」を聞かされるワケだ。

そして今や、インターネット・Twitterの時代。世界中にインターネットが張り巡らされ、もし、ネットが無くなれば、世界中は混乱するだろう。今では、政治家・有名人だけの事だけが情報として流れる

情報は大事だ。が、無駄な情報が入るのもインターネットの世界。しかし、「知らなくてもいい事」を知る事も、大切な時代ではないかと思うのだ。 終。



on air!

CS・BS放送のオススメ映画を紹介します!

『オリエント急行殺人事件』

IMAGICA BS

1974年 イギリス

監督:シドニー・ルメット 原作:アガサ・クリスティ

出演:アルバート・フィニー イングリッド・バーグマン ローレン・バコール
リチャード・ウィドマーク ショーン・コネリー アンソニー・パーキンス
ジャクリン・ビセット ヴァネッサ・レッドグレイヴ マイケル・ヨーク

8月6日(火)08:30 8月6日(火)14:30
8月18日(日)18:45 8月28日(水)14:30

トルコ・イスタンブール。アジアとヨーロッパを結ぶ豪華な大陸横断国際列車オリエント急行は出発まじかだった。冬だというのに満員のオリエント急行に乗り込んだ一人の探偵がいた。エルキュール・ポアロ。数多くの難事件を解決した名探偵だ。

電車の旅二日目の深夜。ポアロの隣室に泊まっていたアメリカ人の大富豪ラチェット殺された。ポアロは彼に「命が狙われている」と相談されていたのだが、横柄な態度から断わっていたのだ。見つかった死体は、ナイフで体中を刺されており、列車は深い雪の中で立ち往生。列車自体が密室状態になっていた。ポアロは、同乗していた列車会社の重役・ピアンキに頼まれ事件の解決に乗り出す…

ミステリーの女王、アガサ・クリスティの代表作の一つ。読者の意表をつく結末はいつもの事でこの作品も物騒をかもした。最近では珍しいオールスター映画でそれはそれで見応えがあります。

『プロメテウス』

WOWOWシネマプライム

2012年 アメリカ

監督:リドリー・スコット

出演:ノオミ・ラバス ミヒヤエル・ファスベンダー シャーリーズ・セロン

8月3日(土)09:00 [シネマ]

8月4日(日)19:45 [プライム]

古代、ある惑星に異星人が地上に降り立つ、そして…

2089年、考古学者であるエリザベスとチャーリーは、地球の古代遺跡から星図を発見し、未開の惑星の存在を確信する。そこで、ウェイランド・コーポレーションの協力で、調査メンバーを乗せ宇宙船プロメテウスはその惑星を目指す。アンドロイドのデイヴィッドが宇宙飛行を担当。数年後、その惑星に到着し、惑星には巨大なドームを発見する。

調査ではそのドームは迷路のようになっており、その中で宇宙人達の死体を発見。二千年前のもので、ここで何か事件が起こったらしい。また、見つかった部屋には円筒形の容器が無数にあり、その容器をデイヴィッドが密かに持ち帰ってしまう。しかし、それが悲劇の始まりだった…

『エイリアン』の前日談が描かれるが見ていなくても十分楽しめます。

シャーリーズ・セロンがスケジュールの関係で脇役、続編ではどうなる!

★読んで頂いてありがとうございます。よろしくお聞きください。よろしくお願ひします!! 貴樹諒音

1972年 ソ連
監督 脚本: アンドレイ・タルコフスキー
原作: スタニスワフ・レム

『惑星ソラリス』

出演: ナタリア・ボンダルチコフ
トナータス・ハニオニス
アナトーリ・ソニーツィン



海と雲に覆われた惑星「ソラリス」。そのフランスマの「海」は、人を近づける事はなく、不思議な波を漂わせていた。
「ソラリス」の海の上に浮く宇宙ステーションからの通信が途絶え、心理学者・クリスが派遣される。宇宙ステーションは荒廃しており、クリスの友人の物理学者は自殺、いるはずの二人の研究者は、平常心を失っているようだ。その上、いるはずのない人影が見え、クリスは不穏な様子に驚く。そして翌日、彼の

目の前に数年前に自殺した妻が現れる…。
映画史上最も難解と言われるキューブリックの「2001年宇宙の旅」と並ぶ傑作SF。確かに意味のみを考えると混乱するが、暗く漂う不思議な海を見つめていると、大事なことは「意味」ではなく、宇宙に漂う惑星「ソラリス」の「海」の存在が大事なのだと思えてくる。
人間は「宇宙」すべてを得ようとしている…。しかし、今・人間は「人間」も「宇宙」の一部だという事を忘れていたのだと思ってしまうのだ。

Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema TVMovie

★次回発行予定・8月は第二・四金曜日です。次回発行は8月9日発行です。

シネマズライフ 43号

★ 発行人: 貴樹諒音 ★

発行日: 2013年7月26日

cinemaz-life@movie.nifty.jp

★ 告知ブログ ★

http://rion-mitugu.cocolog-nifty.com/mitayo/

★ 狂言です。皆様お大目に! ★



★ そこで一句。 風鈴を鳴らすよ 風鈴とは、日本にとつての新しい時代の事です。 また歌がす

【編集後記】
★ 選挙が終わった。想像通り自民が圧勝した。しかし、想像通りまだまだ政治落ち着かない。それに人権を軽視する会社の社長だった人を政治家にした問題も多し。また、野党も頼りない事夥しい…

